ティーチング・ステートメント

所属　北海道科学大学
名前　福原　朗子
更新日　2022 年 4 月 4 日

【責任】

工学部都市環境学科と全学共通教育部の兼務教員として、環境と化学に関する科目を担当している。主たる教育活動は所属学科に加え保健医療学部 5 学科の基礎教育科目（社会の理解 1～自然と環境～・基礎化学）や専門教育科目（都市環境実験・環境と化学）の担当、ゼミ生の研究支援、部活顧問、高大連携授業や公開講座の講師である。学外では、札幌市民カレッジ、地方の教育委員会等で生涯教育の講師である。

【理念】

自分が担当する学生には、自分が人生の中心にいることを意識や覚悟することができ、自力で選択し続け、周りと調和しつつ自分らしく生きていく能力を身につけてほしいと考えている。日常生活の大部分のことは、意識的、無意識的に自ら選択した行動の繰り返しによって変化する。自分の選択肢によって変化していく状況と、自分の力ではどうしようもないことを切り分けて考えられるようになる。生き辛さがあれば、少しでもそれを自分で減らす、居心地の良い場所をみつける、周囲の人とうまくやっていくために、相手に敬意を示し尊重すること、自分が尊重されることを経験し、必要以上に嫌われたり誤解されないための術を身につけるなど、自分に正直な振る舞いができる精神的な逞しさとその実現に必要な教養を身につけた人材を育てたい。自分が工学部の中で約 5%の女性教員であり、学科の専門と異なる分野の研究をしているため、他の教員と価値観や優先順位などが違っている場面を経験することも多い。また、三人の子育てを通じて子どもやその家族などいろいろな世代の人たちと接する機会が多いので、ユニークなロールモデルの一人として、自分らしく生きることを伝える。

【方針・方法】

理念を実現させるため、①～④の 4 つの方針を用いている。

<u>方針 1　物事を判断するために必要な正しい基礎知識を身につける</u>

・Moodle 上で小テストを 15 週のうち 14 週実施している。受験後ただちに正答と採点結果がセルフチェックできるようにしている。（Moodle 資料）

・授業で使用する PPT のデータを PDF で学生に配布している。また、この内容に準じたプリントを配布し、穴埋めや記述問題を含めて授業の大切なポイントを書きながら理解できるように時間を確保している。

・講義内で使用する統計データに各自がアクセスできるように、引用先のリンクを公開している。

<u>方針 2　興味や関心を高めてもらうように工夫する</u>

・スライドと言葉による説明に加えて、動画を用いて事例を紹介している。

・五感を使う体験をなるべく組み込む。座学の講義であっても、体験や実験できる時間を確保している。二酸化炭素を発生させる実験では材料の味見、香りの授業では香りあてクイズ、物理現象の演示実験では音を聴くことや実験機器に触れる時間を設け、環境の授業では五感で感じるといテーマを設定し現地学習を行っている。

・外部講師の特別講演会を毎年 10 回程度行っている。ゲストは研究者や現場で働くスタッフを異業種で組み合わせ、将来のキャリアに関係あるものと、一見無関係に見えるものを組み合わせている。正直でホットな話題の提供を心がけている。

<u>方針 3　学びやすい環境の提供・主体性の育成</u>

・毎時間、授業の最初に学生本人に目標を書く時間と最後に振り返りの時間をとり、それぞれプリントに自分の言葉で書いてもらっている。これらの活動は、提出や友達との情報

共有には使わず、自分のための時間としている。
・受講態度とクラスの雰囲気を見ながら、90 分授業で 1 回または 2 回、2～5 分間の休憩をはさんでいる。アイスブレイクや身体のストレッチ体操などをはさむようにし、集中する時間とリラックスする時間の区切りがわかるように伝え、促している。
・グループワークは、個人的な準備時間、リハーサル時間を設けて 1 回の授業時間に複数回挑戦できるように組み立て、回を重ねるごとに緊張が解けるようにし、友だちから気づきを得て学ぶ時間をとっている。また、学生同士の正と負の両方の評価を伝え合う時間を設けている。ペアワークでは無視のスキルと傾聴のスキルを体験し、話し手と聴き手の意識の違い、話しやすさや話しにくさの理由や具体例、一般的な交渉時に使われる手法について説明する。その後、受講態度やマナーについて説明している。
・PC を用いたレポート作成の課題は、動画を見ながら自分のペースでレポート作成が進むようにし、練習時間と質問対応の時間を設けている。提出物の評価基準をあらかじめルーブリックで開示し、提出前のセルフチェック表を提供している。
<u>方針 4　教員自らが現実を差し出す</u>
・対面授業ではなるべく授業開始 10 分前には入室し、開始時刻ちょうどに講義を始めるようにしている。オンライン授業は 10 分前接続をルールとしている。
・資料やデータなどを使用する際は、できる限り最新の情報に更新するとともに、調査の様子がわかる写真等はなるべく自分のものを用いている。
・自分の学習法を公開し、特別講演会の講師との関係や自分の人的ネットワークにも触れ、学生が今後必要な時に問い合わせできることを説明している。
・講義に活用できそうなワークショップなどに参加し、自分自身の教養を身につける努力を続けている。

【評価・成果】
・レポートの改善：事前にルーブリックを公開した結果、基準文字数を下回るレポートの数が約１%以下になった。提出期限のスケジュール管理を徹底し、受講生が自分の提出状況を確認できるようにしたことによって、提出率がほぼ 100%（欠席者以外）になった。
・小テストが習慣化し、授業評価アンケートで「小テストのおかげで理解が確認できた」というコメントを毎年継続して得られるようになった。
・受講生のアンケート結果の一例として、社会の理解Ⅰ（2022）では、「この授業から新たな興味や問題意識を持つことができた」という質問に対して、非常にそう思う、そう思うの回答が、95%（290/305 名）を超えていた。他の項目も同様に 90%以上である。

【目標】
短期目標：授業終了後、もしくはセメスター終了後にすべての web 上資料（小テスト・配布資料・リンク）を見直しブラッシュアップする。Moodle の小テストを UNIPA へ移行する。授業評価アンケートで、90%以上を継続できるようにする。オープンキャンパスなど授業以外の時間で学生とのコミュニケーションを大切にし、大学祭などのイベントに自主的に参加したり、卒業後も気軽に立ち寄れる雰囲気をつくる。
長期目標：ゼミ生と卒業後も連絡を取り合い、社会に出てからの活躍を確認する。